

1 日 時 令和7年（2025年）7月7日（月）9:30～11:30

2 実施形態 オンライン開催（非公開実施）

3 構成員の出欠席

- (1) 出席 全構成員 11名（構成員名簿参照）
- (2) 欠席 なし

4 出席した道教委職員

学力向上推進課 田原課長、上野課長補佐、平嶋主幹、石山係長

5 議題

(1) 道外からの出願の受入れについて

学力向上推進課担当者から、道立高等学校への道外からの出願に係る入学者選抜について、現状及び論点整理を説明した上で、構成員から意見聴取を行った。

<構成員からの主な意見>

○ 受入れ拡大に肯定的な意見

- ・受入れ条件を3間口にすることで工業高校の選択肢が増える可能性があり、受検者の増加につながる可能性があるのではないかと。
- ・道内の生徒に影響が出るか出ないかが、一つの判断基準になると思う。3間口に限定せず、もう少し受入れ可能な間口を広げてもよいのではないかと。
- ・学校存続の観点から考えると、地域と連携がしっかりと取れており、北海道ならではの学びができる学校であれば、間口数にこだわらず、学校の裁量を大きくして、受入れ枠を広げられるようにした方がよい。
- ・推薦枠の5%にこだわる必要はなく、学校の裁量で枠を決められるようにした方がよい。その際、条件整備や受入れ体制はしっかりと確立し、安心して子どもを預けられることが重要と考える。
- ・各地域の事情もあるので、学校の裁量で枠を決められるようにするのがよいのではないかと。
- ・学校存続の観点から、受入れ枠については学校の裁量で決められるとよい。

○ 受入れ拡大による影響を懸念する意見

- ・受入れ枠を広げるにより、地元の学校に通いたい子どもたちが進学できなくなる可能性もあるのではないかと。
- ・3間口まで広げると、1～2間口の高校にとっては脅威になるのではないかと。また、3間口の学校が受入れ開始しようと思うと、自治体との協議や環境の整備に相当の時間を要すると思われる。

○ その他

- ・道外からの出願者に対して、収入証紙以外の入学検定料の納付方法を検討してもらいたい。
- ・道内出願者にどの程度影響があるか、また、受入れの拡大が現在の実施校の生徒確保にどう影響するかについて、道外推薦を実施している学校にアンケート調査をした方がよいのではないかと。
- ・ポータルサイトや相談窓口などを設けることで、北海道の高校で学ぶ道外からの生徒が増えるのではないかと。

(2) 不登校生徒や欠席の多い生徒への配慮について

学力向上推進課担当者から、入学者選抜における不登校生徒や欠席の多い生徒への配慮について、現状及び論点整理を説明した上で、構成員から意見聴取を行った。

<構成員からの主な意見>

○ 出欠の記録を残した方がよいという意見

- ・ 出欠の記録については、子どもたちを送り出す側としては、手厚く支えてほしいという思いで記載している。高校側で活用されているのであれば、継続が必要ではないか。
- ・ 出欠の記録は、教育相談の観点など、入学してからの生徒指導の参考資料として活用しているので、中高のスムーズな接続のために残してもらいたい。
- ・ 生徒の情報のやり取りの点では、現状の形が一番よいと思う。個人調査書から削除してしまうと、新たな情報交換の場を設定しなければならず、年度末の多忙な時期にさらに業務が増えることになるのではないかと。
- ・ 出欠の記録が入学後の指導の参考になるということについて、不登校の子を持つ保護者はすごく安心できるのではないかと。入学後に子どもたちがうまく学校に通えることにつながるのであれば、このまま残してもよいと思う。

○ 出欠の記録を削除した方がよいという意見

- ・ 受検生、保護者の不安を除くため、個人調査書から出欠の記録欄を削除し、一方で、中高の望ましい接続を確保する観点から、中学校の負担に配慮して入学意思の確認のタイミングで、出欠情報を形式的に報告する様式を定めることが可能であれば検討してもらいたい。

○ その他

- ・ 出欠の記録欄は、参考情報としてのみの使用であることを実施要項に明示するとよい。
- ・ 不登校の子を持つ保護者の方から、出欠の記録欄についての相談は多い。「出欠の記録欄が選抜に不利に働くことはないから大丈夫」と学校は言うが、それでも当該保護者は不安を感じるのではないかと。